

受講番号 19008 学校名 高知東工業高等学校 氏名 刈谷 玲子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 37名  
 科目名 英語 I 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 VISTA English Series I

クラスの様子・特徴

英語が好きで熱心に取り組む生徒と、苦手意識を持ち家庭学習なども期待できない生徒がいるなど、学力に差がある。読み方に自信を持っていない生徒もコーラスリーディングではよく声が出て、全体的に授業態度は良好である。

問題の確定

音と綴りの結びつきが理解できていない。基本的語彙、文法の基礎知識が不足している。家庭学習の習慣が身に付いていない。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
最後まで熱心に取り組む生徒が数名いるが、多様な生徒が混在しており、集中して授業に取り組めていない。途中から取り組みをやめてしまう生徒や、教科書等を忘れる生徒などが混在する。	6月26日のアンケートによると、授業内容の理解がほぼできている生徒が20名。授業の内容、説明、進め方、板書やプリント等授業に関しては90%以上の生徒が好意的に評価している。一方、英語の授業に興味を持っていない生徒も半数近い。	中間試験の平均点は64.5で、努力が認められる。しかし、アルファベットが完全に書けない生徒や、一般動詞とbe動詞の区別がつかない生徒、人称代名詞が全部理解できていない生徒が数名いる。

リサーチ・クエスト

中学既習内容が定着していない生徒が過半数のクラスで、基本的な語彙や文法を定着させて、英語に興味・関心を持たせるにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
単語の意味だけでなく、読みも繰り返し練習して、綴りと読み結びつきが分かるようになれば、自信につながり、英語への抵抗が少なくなるのではないだろうか。	各レッスンの本文や練習問題に出てくる単語・熟語をプリントにまとめ(プリントNo.2)、最初の授業で1時間かけて読み方と意味を確認する。そして、その後の英語の授業の初めにコーラスリーディングをして読み方の確認をし、定着するようにする。	もともとコーラスリーディングでは声が出るクラスではあったが、個人で読むと読めない生徒が多く、個人では読みたがらない生徒も少なからずいた。時間をかけて何度も読むと、個人でも読めるようになり、また読み方を覚えようとする態度が顕著に見られるようになった。
フレーズリーディングを行うことで、英語の語順に慣れるとともに、内容が把握しやすくなり、英文が読めるという満足感が得られるのではないだろうか。	本文の英文を句で区切ったプリント(プリントNo.3)にし、それぞれの句の意味を確認する。次に、同じ英文をフレーズリーディング用のプリント(プリントNo.4)にして、読みを練習する。最後に、主語や動詞を明示して文型を意識したプリント(プリントNo.5)にして、全文の内容を確認する。	「今まで英語がわからなかった(語彙も語順も理解できていなかった)が、プリントNo.3、No.4、No.5に取り組むことでわかるようになった。」と言って、真剣に取り組むようになった生徒が3名、「これならできるかも知れない。」と言って、英語に関心を持ち始めた生徒も数名でてきた。
授業の終わりに、その日学習した英文を音読筆写させたり、頻繁に確認のための小テストを行うことで語彙や構文が定着するのではないだろうか。	本文の英文の読みと意味の確認が終了した後、本文に出てきた単語・熟語の綴り確認するプリント(プリントNo.8)を配布し、定着をはかる。その後、日本文を英語の語順にして句ごとに区切ったプリント(プリントNo.9)で、英文を再現させる。最後に、日本文の語順で書いた日本文のプリント(プリントNo.10)で英文を音読筆写させる。	各レッスンの終わりに行う Reading Test は4月当初に比べると、12月には読める生徒が増え、英文を読む速度も速くなり、読み間違いも格段に減った。アンケート結果でも、英語の授業に対する抵抗が減ってきていることが伺える。また、英語検定にも挑戦してみようと、5名の生徒が1月の英語検定を受験し、数名の生徒が来年度の受験を目指している。

研究の成果

「やればできるかも・・・」と思う生徒が増えはじめた。テストの内容を授業で学習した事項の復習にすると、きちんと取り組んだ生徒の得点は上がり、さらにやる気を起こさせた。中間試験、期末試験ともに、一学期より二学期が約10点高くなった。アンケートの結果を比べても、「やる気が十分ある」が2名から13名に増え、授業内容を理解している生徒も20名から26名に増えた。

今後の授業改善の課題

変化の程度に差はあるが、ほとんどの生徒に良い変化が現れ、授業にも手ごたえを感じられるようになった。しかし、少数ではあるが、変化が見られない生徒や、実行が伴っていない生徒もいる。将来設計ができていないことが最大の原因と思われるので、授業だけの対応には限界があるように思う。また、やる気を出す生徒に対しては、限られた時間内でいかに効率よく学力を伸ばしていくか、さらなる授業改善を考える必要がある。